

令和元年度全国学力・学習状況調査の結果および考察

大阪狭山市立南第三小学校

1. 本年度の学力・学習調査結果の概要について

- ・国語、算数ともに無解答率が低く、児童の学習に対する姿勢が前向きであることが表れていました。
- ・国語の調査では昨年度と同様に「読む能力」について良好な結果でした。これは本校の読書活動も成果につながったと思われます。一方で「話す・聞く能力」や「書く能力」については課題がありました。
- ・算数の調査では「知識・理解」や「技能」について特に良好な結果でした。これは本校が「数と計算」領域に重点を置いて取り組んでいる成果だと考えられます。

2. 各教科における成果と課題について

		成 果	課 題
国 語	○ 知識・理解・技能 ○ 言語についての ○ 関心・意欲・態度	・無解答率が全体的に低く、学習に対する意欲は高いと考えられます。目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く問題や目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む問題では特に顕著に表れています。	・漢字やことわざなどの正答率に課題がありました。普段の漢字やことわざに触れる機会の少なさが影響していると考えられます。 ・接続語を用いて一つの文章を二つに分けるなどの問題の正答率が約20%と課題がありました。
	○ 読む能力 ○ 書く能力 ○ 話す・聞く能力	・自分の考えを明確にしながら読む問題では正答率が80%を超えていました。 ・無解答率0%の問題は9問中5問、平均して約2.7%と良好な結果になりました。	・図表やグラフなどを用いた目的を捉える問題で、図や表などから読み取り選択したり、書いたりすることには課題がありました。 ・読む能力に比べ、話す・聞く能力や書く能力に課題がありました。
算 数	○ 知識・理解 ○ 数量や図形についての知 ○ 関心・意欲・態度	・知識・理解についての正答率は、昨年度に比べて15%以上増え、80%を超えていました。 ・知識・理解についての無解答率は、0%で、昨年度に比べて良好な結果でした。	・台形についての理解を問う問題で、誤答している児童は、全員選択肢1を選んでいました。これは、長方形の直線上にどこでも良いので2本あれば良いと誤答していたと考えられます。図形の定義をしっかりとおさえ、数学的活動を通して、たくさん触れさせる必要がありました。

<p>○ 数量的な考え方</p> <p>○ 数量や図形についての技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・技能についての正答率は、昨年度に比べて15%以上増え、70%を超えていました。特に、加法と乗法の混合した整数と小数の計算では、正答率が85%を超えており、本校が「数と計算」領域に力を入れて取り組んでいる成果であると考えられます。 ・数学的な考え方の正答率は、昨年度に比べて6%以上増え、60%近かったです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・示された場面から算数の良さをを使って解決していく問題に課題が見られました。 ・示された考えを解釈し、その考えを基にして記述する問題に力を入れて取り組んでいたが、正答率40%程度に留まり、課題が見られました。
----------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

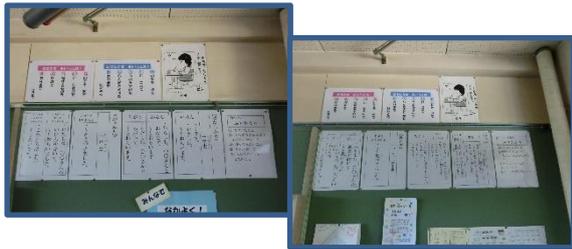
3. 本校の学力向上に関する現在の取組みについて



校内研究の充実（研究授業・討議会）
年3回実施



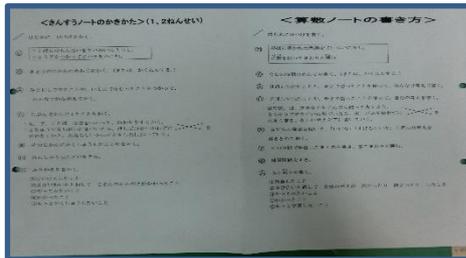
校内研究（研修会）の充実
年度初め及び学期に1回程度



6年間を見通した学びの環境づくり
各学年の発達段階に応じた内容の掲示



基礎基本の学習（チャレンジプリント）
算数の時間の最初に実施



振り返りのできるノート作り
年度始めの研修会にて全教職員で共通理解
を図る



家庭学習の定着に向けて
年に3回、配布



読書活動の充実
木曜日の朝の時間に全校で実施



ICT機器の活用
各クラスにタブレットを用意し活用

4. 今後の取組みの方向性について

1. 教職員の授業力向上のために

- ・年間3回の校内研究授業を行っています。研究授業の後には、全教職員が参加して授業についての研究討議会を行っています。今年度は、『どの子もわかる算数の一時間』というテーマのもと教職員の授業力向上に努めています。
- ・教職員対象の研修会も年に数回行っています。外部から講師の先生を招いて行ったり、校内の教職員が講師役となって行ったりしています。研修に取り組むことで、教職員の共通理解を深めることができます。

2. 6年間を見通した学びのために

- ・すべてのクラスに、学年に応じた発表の手立てとなる「話し方」「聴き方」などを、場所を決めて掲示しています。これは、学年の発達段階に応じたものになっており、子どもたちが無理なく身につけていけるものになっています。
- ・国語や算数の時間の最初に日替わりメニュー（自ら学ぶノート・百マス計算など）を取り入れています。本校では長年にわたり取り組んできており、基礎基本の定着につながられています。毎年、本校児童により適したものになるよう、教職員で話し合い、必要に応じて変更し、取り組んでいます。昨年度途中からは、百マス計算から発展させ、二桁×一桁のかけ算なども取り入れています。
- ・児童が、ノートを見返した時に自分の学びの振り返りができるようなノート作りを行っています。年度の始めに全教職員で共通理解を図り、実践しています。
- ・「家庭学習のすすめ」を年間3回配布し、家庭での学習習慣の定着につなげていきたいと考えています。
- ・1年生では、MIM（多層指導モデル）に今年度も取り組んでいます。ひらがな、カタカナの特につまづきやすい「特殊音節」に焦点を当てた指導で、定期的に成果を測定し、学習指導に役立てています。

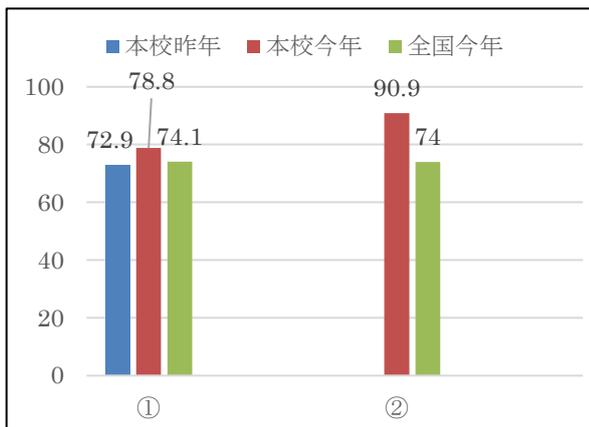
3. よりよい学習環境づくりのために

- ・読書習慣のさらなる定着のために、朝の読書タイム、委員会と連携した読書ノート（多読賞）の取り組み、お話会やアニメーションなど、図書館司書とも連携を深めながら、充実を図っております。朝の読書タイムでは、担任も児童と一緒に読書を行うことで、児童の読書意欲を高められるようにしています。
- ・ICT機器を効果的に活用することで、児童の興味関心を引き出し、より意欲的に学習できるようにしています。
- ・低学年を中心に「さやまっ子ティーチャー」を活用し、すべての児童の学力の定着を図っています。また、様々な専門的な知識をお持ちの地域の方にも協力いただき、児童の学力や意欲の向上につとめています。

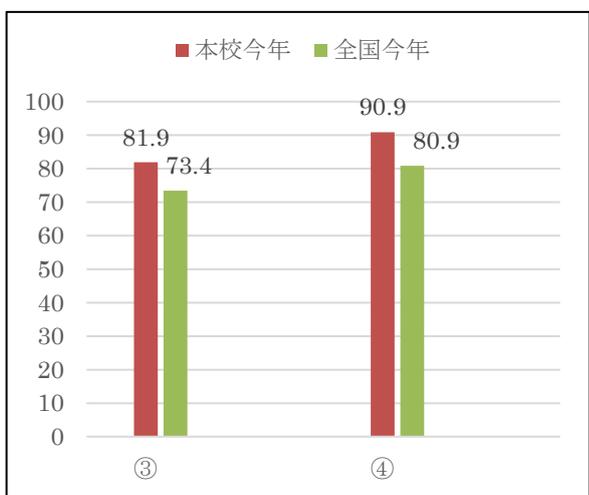
5. 児童質問紙調査の結果の概要

〈取組みの成果があらわれている、特徴的であると思われる事項について〉

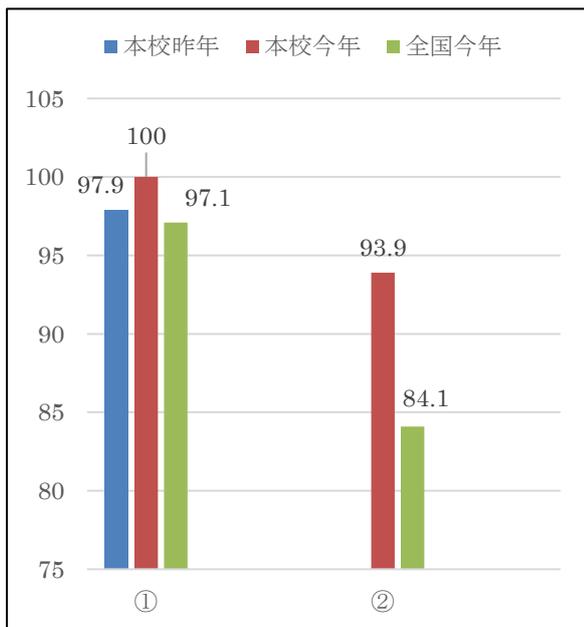
1. 話し合い活動の充実



左のグラフ①は「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」、②は「学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思いますか」③は「学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思いますか」④は「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思いますか」という項目の肯定的回答の割合です。②～④の項目については昨年度、同内容の質問がありませんでしたので、今年の本校と全国の比較となっています。①については昨年度より向上し、全国平均も上回っています。②～④についても全国平均を大きく上回っています。これらは本校が授業や学級会などの場で話し合い活動に重点的に取り組んできた成果だと考えられます。

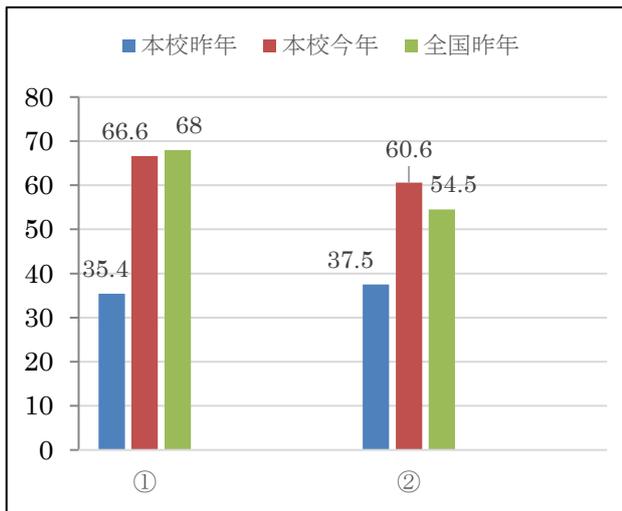


2. 仲間を大切にしたいの向上



左のグラフ①は「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」という項目についての肯定的回答の割合です。昨年度も肯定的回答が高く、今年度は100%となりました。また、②は「学級みんなで話し合っただけで決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがありますか」という項目に対する肯定的回答の割合です。（昨年度、同内容の質問はありませんでした）これらから、本校児童が仲間を大切に、仲間とともに取り組むことに喜びを感じていることが読み取れます。めざす子ども像の一つに「ちがいを認め合い、仲間を大切にしたい子」を掲げ、取り組んできた成果と考えます。今後も継続して取り組んでまいります。

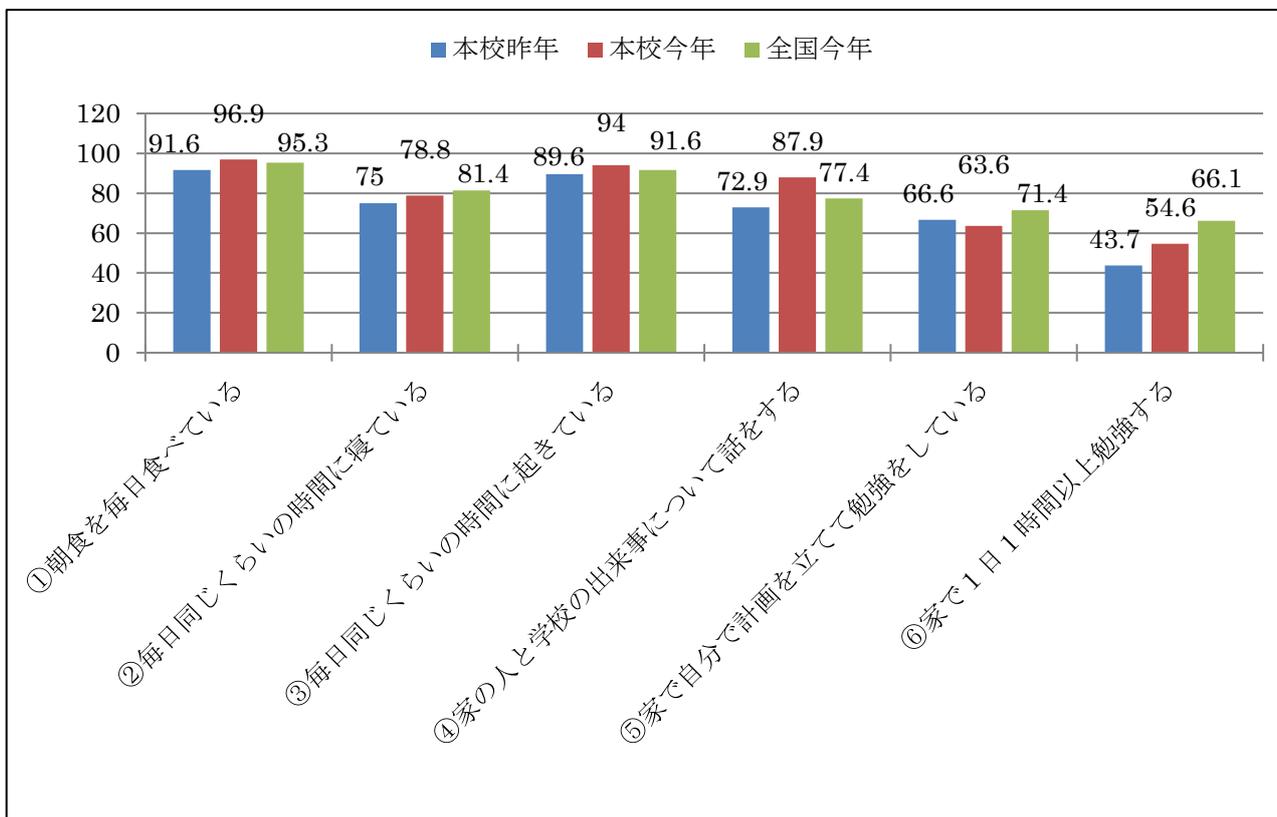
3. 地域との関わりや社会性について



左のグラフ①は「今住んでいる地域の行事に参加していますか」、②は「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」という項目の肯定的回答の割合です。いずれも昨年度課題が見られた項目です。今年度は昨年を大きく上回り、②については全国平均も上回りました。昨年度までの反省を踏まえ、1年間様々な機会を通して子どもたちの意識を高めることに努めた成果かと考えます。今後とも地域とのつながりを大切にする取り組みを進めてまいります。

<今後に向けて、課題と思われる事項について>

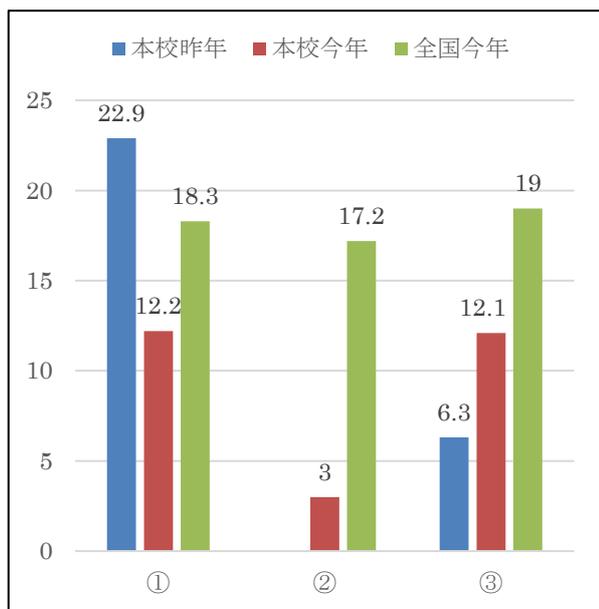
1. 生活習慣・学習習慣について



グラフ①～③を見ると、本校の児童はおおむね良好な生活習慣が身についているようです。「早寝・早起き・朝ごはん」は健康を維持し、学力を高めるうえでも最も基本となることです。今後ともご家庭でのご指導・ご協力をよろしくお願い致します。またグラフ④で見ると家族との関係も良好です。子どもは、日々学校で様々な経験を重ねてきます。ぜひ、ご家庭で学校での出来事を聞いてあげてください。一方、家庭での学習についてはやや課題がみられます。(グラフ⑤⑥)「計画的に勉強している」と答えた児童が63.6%と昨年を下回り、全国平均とも7ポイント以上の開きがあります。また「家で1時間以上の勉強をする」と答えた児童の割合は昨年度よりは改善しましたが、

依然、全国平均とは大きな隔たりがあります。グラフにはありませんが「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」という質問についても肯定的回答が66.7%にとどまっており、家庭学習に限らず、学習に対して主体的に取り組む意識に課題がある児童が多いことがうかがわれます。これは昨年度から引き続けている傾向です。「国語や算数の勉強が好きですか」という問いには肯定的回答の割合が高かったため、今後はその思いをより主体的な学習につなげるよう、取り組んでまいります。

2. 読書や新聞を読む習慣について



左の①のグラフは「授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日30分以上読書をする」、②は「夏休みや放課後、学校が休みの日に本を読んだり借りたりするために、学校図書室や地域の図書館に月1回以上行く」（昨年度同質問はなし）、③は「新聞を読んでいますか」という問いの肯定的回答の割合です。いずれも低い数字にとどまっており、特に①については昨年度の数字を大きく下回っています。「読書は好きですか」という問いには78.8%の児童が肯定的に回答しているのですが、それが読書習慣として定着していないことがわかります。言語能力を向上させ、子どものもつ様々な可能性を高めるうえで読書が有効であることは言うまでもありません。今後とも読書習慣の定着に向けて取り組んでまいります。

6. 保護者・児童のみなさんへ

〈児童の皆さんへ〉

・皆さんは、仲間を大切に、仲間と話し合い協力する中で、自らや学級集団を高めていくという素晴らしい力を持っています。このことに自信をもって、これからも自分たちの力で様々な課題に立ち向かい、それを乗り越えていってほしいと思います。

・学習についてもまじめな姿勢で前向きに取り組んでいます。今後は学校での勉強以外に、家庭でも計画的に学習に取り組みましょう。これからの時代は与えられたことをするだけでなく、やるべきことを自分で見つけ、取り組んでいく力が求められます。そのためにも読書の習慣を身につけ、自ら考える力を高めていきましょう。

〈保護者の皆さまへ〉

・本校の児童は、基本的な生活習慣が身につけており、ご家族で会話する時間も十分に取れているようです。これはご家庭のご努力の賜物と感謝いたします。子どもたちを取り巻く社会環境は厳しさを増すばかりです。特にパソコン・スマホ等との接し方は十分な配慮が求められます。子どもたちの健全な成長のため、今後ともご協力をお願いいたします。

・今後、子どもたちが授業により前向きに取り組むことができるよう、家庭学習が宿題のみにとどまらず、計画的に取り組むことができるようご指導ください。学校でも励ましの声掛けに努めてまいります。